

..... 編集後記

◆皆さんはカラカサタケという茸をご存じですか。この茸は30cmほどの高さがあり白くて人目を引く茸です。傘の部分を握っても壊れません。別名ニギリタケとも言い、焼いて食べると口の中にほんわりとした香が漂い、大変美味です。つくばでは例年9月の末、運動会の時期になると東向きの松林に立ち上がりますが、今年は1ヵ月も早く顔を出しました。今年の気候はやはり変だと思えます。皆さんの所はどうですか。

◆今年も「サイエンス・キャンプ'98地質調査所」を資源エネルギー地質部の徳橋秀一室長の陣頭指揮で、小玉所長、加藤環境地質部長にも講師として加わってもらい、房総半島の養老溪谷周辺で実施しました。定員を10人にしたのですが、東は北海道、西は広島県まで各地の15人から応募作文が寄せられました。高等学校での地学教育の現状を考えると、応募者から不合格者を出し難く、事務局と相談して全員を合格としました。今年のサイエンス・キャンプは13万年前の潮干狩り、タービダイト堆積構造の観察、ルートマップの作成など盛り沢山の内容でしたが、参加した高校生には刺激的だったようです。特に、料理の名人の加藤部長の指揮で取り組んだトルコ肉団子を始めとするパーベキューは楽しかったようです。「地学部長をしているが部員は自分一人で、話相手がいないのが悩みだったが、今回のサイエンス・キャ

ンプに参加して友達ができて嬉しい」との感想を述べた子が数人いました。また、地質の方面に進学したいのだがどうしたら良いのかと言う相談もあり、講師陣が分担して彼等の人生相談に対応しましたが、彼等は乾燥した海綿のようなもので、水を与えればいくらでも吸収する能力を持っている子供達だと感じました。残念ながら現状では、彼等の周りにはそのような環境がないようです。どなたか彼等に手を貸してやって下さいませんか。

◆さて、今月号は活断層の調査・研究の進捗状況、地球環境関連の記事および最古の地殻形成の議論を中心に紙面を構成しました。

◆活断層・地震予知特別研究室の研究者はたいへん忙しく調査・研究に活躍しています。今回の記事では、近畿地方周辺の活断層の活動と古地震との対応が報告されています。関連地域にお住まいの方々には特に関心があるかと思えます。ご一読下さい。

◆深海底のマンガン団塊はこれまで資源としての観点から取り上げられてきましたが、今回は地球環境の観点から論じられています。

◆最古の地殻についての議論は地質の若い日本では思いつかない議論だと思います。花崗岩の研究で世界中を歩いておられる石原氏ならではの記事だと思います。(有田正史)

地質ニュース編集委員会

委員長：有田正史

副委員長：石井武政

委員：佐藤興平・今井 登・村上文敏・大熊茂雄

顧問：林 暉・石原舜三・大嶋和雄・高橋 博

事務局：総務部業務課広報係(谷田部信郎・吉田朋弘)

〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-3

地質調査所 地質ニュース編集委員会

事務局 Tel. 0298-54-3520

Fax. 0298-54-3504

地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ

地質ニュース	第529号	1998年	9月号
	定価¥785(本体価格¥748)	〒実費	
1998年9月1日	発行		
編集	工業技術院地質調査所		
発行人	株式会社 実業公報社		
	代表者 林 光生		
発行所	株式会社 実業公報社		
	東京都千代田区九段北1の7の8 〒102-0073		
	Tel. (03)3265-0951(代表)		
	Fax. (03)3265-0952		
	振替口座 00110-6-32466		
	麹町局私書箱第21号		
印刷	株式会社 ケイ・トゥー・ワン		

© 1998 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンターおよびつくば市の友朋堂書店本店に常備してあります。また、最寄りの書店でも注文できます。